

自転車のシンボルマーク「オーディナリー」 (1870年)



19世紀の後半頃までは自転車にチェーンがなく、ペダルは子ども用三輪車と同じく前輪に付いていました。このため、ペダルを1回転させても前輪は1回転しかしないので、スピードを出すことができません。自転車レースが盛んに行われ始めたときでしたが、スピードを競うためには前輪を大きくする必要があります。

こうして1870年、イギリス人のスターレーらが前輪を大きくし、後輪は乗ったときのバランスのために小さくした自転車を初めて製作しました。この自転車は当時、これこそが本当の自転車と考えられ、「普通」という意味のオーディナリーと呼ばれました。イギリスだけでも20万台が製造され、スターレーは「自転車工業の父」と呼ばれるようになりました。

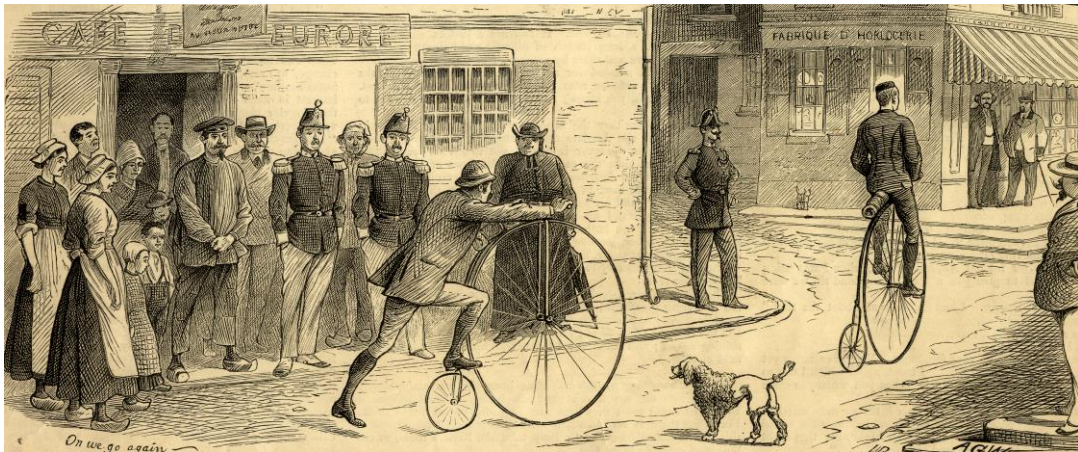
人気が高まってくるとさらにスピードを出そうとますます前輪は大きくなり、直径が2メートル近くもある自転車も登場しました。後輪の近くにあるステップを使って後ろから乗りますが、サドルの位置も高いため転倒しやすく、誰でも簡単に乗ることが出来るわけではありませんでした。誕生してからわずか15年ほどで、もっと安全で乗りやすい自転車が考案されると、オーディナリーはあっというまに利用されなくなってしまいました。しかし、今でもそのデザインだけは自転車屋さんの看板などに残っています。



ジェームス・スターレー (1830年～1881年)
イギリス人 自転車工業の父とも呼ばれている



オーディナリー自転車によるレースが盛んに行われ、前輪を大きくすることでスピードを競っていた



後輪の近くにあるステップを使って後ろから乗ったが、誰でも簡単に乗れるわけではなかった



前輪が大きいため、小さな石に当たっても乗っている人は前に飛び出してしまう危険な乗り物でもあった